

気仙光陵支援学校

研究テーマ

「児童生徒一人一人が主体的に取り組む授業づくり・生活づくり」

～各教科等を合わせた指導の充実を目指して～

(2年次研究2年目)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

児童生徒の将来の自立、豊かな充実した生活のためには、児童生徒が主体的に活動し、達成感や充実感を感じる経験を積み重ねることが大切だと考え、研究テーマを設定した。

本校では、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科等を合わせて指導を行い、効果的な指導方法を工夫しながら取り組んでいる。各教科等を合わせた指導の授業改善は、児童生徒がどのように学ぶか(「主体的・対話的で深い学び」が実現できているか)を見つめ直すきっかけとなり、主体的に学んで自分の力につなげる一つの有効な手段となるのではないかと仮定し、サブテーマを設定した。

(2) 研究の目的

各教科等を合わせた指導において、各教科等の視点を踏まえた目標を設定し指導・支援に取り組むことを通して、児童生徒一人一人がより主体的に活動し、生きる力を育むことのできる授業づくり・生活づくりを目指す。

(3) 研究の内容

- ① 新学習指導要領解説にある各教科等の「目標・内容の一覧」を踏まえて各教科等を合わせた指導の目標を立て、内容を検討する。
- ② 教科別の指導との関連を意識しながら授業改善・支援の充実を図る。

(4) 今年度の実践

- ① 校内研究の方向性の確認
- ② 各学部・寄宿舎ごとの研究
- ③ 授業研究会の実施
(開かれた授業研究会との併催)
 - ・第1回：小学部 生活単元学習
 - ・第2回：中学部 作業学習
 - ・第3回：高等部 作業学習

助言 学校教育室 主任指導主事

鎌田 和茂 氏

④ 研究のまとめ

2 各学部・寄宿舎研究

(1) 小学部

単元間や各教科等とのつながりの視点から生活単元学習の年間計画を見直し、授業実践を行った。児童が生活に生きる力を得られるよう授業計画を立て、活用しやすい個別目標シートや評価シートの様式の改善、学部での統一を図った。

(2) 中学部

作業学習における個々の生徒の各教科の主な目標を3観点で設定するとともに、主体的、対話的で深い学びの視点から支援の手立てを検討し、各作業班で共有した。学習指導要領に記載されている各教科の目標・内容を作業学習の具体的な指導場面に落とし込むことができた。

(3) 高等部

今年度は以下の2つに取り組んだ。①「授業改善シートの活用」…作業班ごとに使いやすいシートについて検討し、様式を変更して活用した。②「3観点による評価」…高等部の各教科等のうち、社会・理科・職業・家庭について、新学習指導要領を用いて学習評価を行った。

(4) 寄宿舎

主体性を引き出して生活力を育むため、学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の視点に着目した。また、自立活動の領域に、個別の生活指導計画の短期目標を当てはめ、生徒の得意なことや困っていることを見出した。そこからより実態に即した手立てを確認して生活指導を行った。

3 講演会

演題：「各教科等を合わせた指導」の計画・実施・評価

講師：植草学園大学発達教育学部 教授

名古屋 恒彦 氏

期日：令和4年7月29日(金)

参加者：44名

4 刊行物 研究集録は刊行していません。